

**福竜丸だより**

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

**11月来館者数 6002名**

月平均来館者数 3.447名  
日平均来館者数 135名

**通算来館者数 144798名**

「三宅会長の原爆資料発見と  
ビキニ資料収集の重要性」

広田 重道

広島被爆の資料発見  
最近、三宅泰雄会長が旧知の三井再男氏(当時の海軍大佐)の執筆になる広島被爆直後の旧海軍極秘報告文書を手に入れられ、その内容をめぐって三井氏と対談されたことが、雑誌「文化評論」十二月号に掲載されています。

資料は、昭和二〇年八月八日付、呉鎮守府司令部の調査団「八月六日広島空襲被害状況調査報告概要」京大物理学教室荒勝文策氏の「調査結果及び判断の概要」ならびに呉鎮守府「広島市における原子爆弾に関する調査(二〇年九月)で、それぞれに貴重な内容をもっていますが、それらの資料を通じての当時の問題点が両氏の対談で明らかにされています。

資料は語る  
投下の直後に、それが原爆で

あると看破していた学者のいたこと、爆弾をめぐって陸海軍で意見が対立し、当然、放射能の危険が察知できたにも拘らず、立入禁止その他の適切な措置がとられなかった政府の責任などです。また原爆の影響測定に決定的な爆発の高さなどが今日に至るまで不明確なことです。

ビキニ被災の資料  
広島よりも真新しい筈のビキニ事件も今日までの資料では不明点が多くに多すぎます。しかも、一九七五年サンフランシスコ・シンポジウムの報告や、テキサス大学のロバート・ディバイン教授の「一九五四、六〇年の核実験論争」でも、三・一ブラボール爆弾がビキニ環礁のナム島で行われたことなど重要な指摘が行われています。

こうしたビキニ事件の内外にわたる資料を収集し、研究し、

新春・親子大会

1月13日(日)午前10:30 夢の島・展示館まえ広場

これまで新春・凧上げ大会として開いていた集会を名称を変え、内容も多彩にして開きます。

コンクール・参加自由・賞品多数・入場無料

主催(財) 第五福竜丸平和協会 後援 東京都

公表することは、ますます重要になってきていることを、このたびの三宅会長の成果が示しています。

展示館だより

海外からの参観者  
十一月に入って英国ロンドン生活協同組合の役員で写真家のフィル・デフリースさんが訪れたのに続いて、米国ワシントンのYMCAの平和グループのベルノン・ハサウェイさん他十数名が広島・長崎への旅行の途中に立ち寄りしました。

こうした傾向は、展示館そのものが国際的にも知られてきたことを示しています。

掲示板

「原発ジプシー」燃る  
堀江邦夫著「原発ジプシー」は、平和協会拡大評議員会でも紹介され、席上20冊がたちまち売切れましたが、福島その他原発所在地でもブームを起しています。

「水爆の秘密をあばく」  
朝日ジャーナル十一月十六日

ものが国際的にも知られてきたことを示しています。

団体見学がふえる  
去る十月十七日に和歌山県田辺市上秋津中学校二年生二八名が、修学旅行の途中、展示館を訪れたほか、十一月に入ってから学童・生徒をふくむ団体数は三七、人員は四、二〇名となっています。

そのために、必ずしも天候に恵まれなかった十一月に、過去の十一月としては最高の来館者数六千名をこえました。

貸出パネルの活用

協会の貸出パネルが作成されましたが、すでに創価大学(八王子)核問題研究会、江戸川松の江第三中学生徒会、中央労働学院自治会、東京母親連絡会有志が、それぞれ学校祭、学習会などに使っています。

なお、スライドは東京平和連絡会、東京理科大学自治会などで活用されていますが、来春はさらにふえる見込みです。

展示替の実施

十一月末に、定期的な展示替が行われましたが、今回は第五福竜丸が夢の島において移動した足跡を图示したもの、ビキニの現状の理解に役立つ写真パネル、第五福竜丸の久保山愛吉氏の死を伝える写真などを加えたほか、写植による説明文の鮮明化や広島のパノラマの掲示など参観者の便を計ることに主眼をおきました。百聞は一見にしかず—ご来観ください。

重要な文献です。

号に載ったハワード・モートンの「水爆の秘密をあばく」は興味ある論文で、第五福竜丸事件のことも扱っている点では貴重です。

編集後記

△最近展示館への団体見学がめっきり多くなってきて、日によっては整理するのに係員が大汗をかき、嬉しい悲鳴をあげることがあります。

▽集団見学で目につくのはギャギャと統制のない団体、キチンと節度のある団体など日ごろの教養がわかることです。とくに学校の場合は、その差がおどろくほど大きいことです。

▽教師の指導のせい、児童の家庭をふくめて生活環境のせい、俄かにはきめかねますが、来観者の態度は実社会の縮図そのものです。とかく、考えさせられることが多いのです。

▽夢の島にも木枯が吹きすさびすぎましい冬の訪れを感じさせる季節になりました。一九七九年もいよいよ二十日となって、八〇年代を迎える不安と期待に思わず身を硬くする思いです。

▽読者のみなさんのすこやかな越年を心から祈ります。(H)

連載

平和をねがう人々の声 (4)  
久保山さんによせられた手紙



◇文集・サークル誌  
今回は、文集・サークル誌を紹介したいと思います。文集は数の上ではわずかに三誌ですが、それぞれ内容が異なり、「文集を作る」ということが、いかに貴重なことか、改めて思い知らされました。

ました。この前も言ったね。「考えたことや言ったことが、することと同じであるように」とね。久保山さんの死を忘れないこと。台風十五号!!こわかったね。みんな元気だったかね。先生心配したよ。みんなのことを。  
『文集』十二巻(全)

保山さんの子どもになぐさめの手紙を出したらしい。  
◇サークル誌  
サークル誌は二誌寄せられています。「仲間」を通して、何かを求めようとしている「仲間」。純粋に文学を愛する人たちが作られた『合志文芸』。共に、ページは久保山さんの死を悼む作品でうめられています。  
『仲間』 六号  
大田区仲間の会 発行  
久保山さんの死

もつらいの。未亡人なんて本当はイヤ。「戦争で夫をなくした上に、戦後のインフレですべての財産をうりぐいしたというこの人は、ビキニの灰で死んだ久保山さんのことを心から同情し、泣いていた。もう不幸なことは、たくさんだ。  
『合志文芸』 第二十一号  
熊本県 合志文芸クラブ 発行

橋本学級・子鳩グループ  
おたより

待ってた

久保山さんから

お手紙来た このごろは

帰ってしまった

お母さんとさみしいと

書いてた

先生も読んで目をふいていた

かわいそうな 久保山さん。

※担任から

水爆被害でなくなった久

K・F

久保山さんがなくなったことを、防府の旅館で知った。この旅館には二三度泊っているの、顔みしりの女中さんが、茶と夕刊を持ってきながら、話してくれた。

コスモスは嵐にたおれ君逝けり  
うらみつゝ君逝きませり露の如  
鬼か蛇かまだ水爆ば作るちゅう  
言うことも多かりしならむ息絶  
ゆる君が最後の言葉空しく  
平島 坂本 向原  
下町 西島 暁虹  
平島 坂本瓢太郎

上庄 渡辺 青湖

死なねばならぬ理由あつての死  
であればかくも深くは嘆かぬも  
のを

渡辺 幸一



多彩な顔ぶれで

拡大評議員会開催

去る十一月十四日、市ヶ谷・私学会館で午後二時から、平和協会拡大評議員会が開催されました。

二年ぶりに開かれたこの会には、石井あや子、小野周、川崎昭一郎、猿橋勝子、服部学の評議員各氏に加え、ルポライターの堀江邦夫、カメラマンの森下

一徹、婦団連の大関清子の各氏や、協会に関係の深い浅見善吉氏ら多彩な顔ぶれが参加、親しく懇談しました。

会議は、まず三宅会長のあいさつで始まり、続いて広田専務理事が展示館の現況、今後の行動などについての報告を行ないました。

この中で、最近の諸行動と原水爆資料館建設計画に議論が集中し、来年予定されているユネスコの軍縮教育シンポジウムに呼応する形で、東京で平和教育シンポジウムを開催出来るよう今後も情報収集を行なう事などが決定されました。

また、資料館建設計画については、維持、運営資金の確立の問題を十分に考慮し、今後検討を続け、近く案を作り、理事会や評議員会に計ることが話し合われました。

来館者の声から



でも、そしてここ夢の島でも、私はその自分をぬけ出すことができなかった。

十八才 学生

立派な展示館ですねえ。それに夢の島っていうのは、ゴミの山ではないんですね。これにも驚いた。

私は正直いって、反戦論を唱えるだけの確信もありませんし、この第五福竜丸の保存の重要性もはっきりとわかっていないつもりではありません。広島も長崎も私は訪れましたが、ただその時、その場だけの反戦、反原水爆の感情しか起きませんでした。

ひとたび、その地をはなれば、平和な世界の一角となれるのですから。平和な環境に囲まれた人間は、平和の有難さを忘れません。そして、今の私も忘れていません。いや、知る機会がないのです。こんな自分が厭で厭で、たまりません。世界に名高き被爆国の一員でありながら、その重要性を理解できない自分に、腹が立ちます。長崎でも、広島

平和の尊さを噛みしめ  
平和を守るためのために  
たゆみなく  
力を注ぐことは  
平和を奪い尽そうとする者への  
の 全身の怒りと  
深く結びついていることを  
いや  
これからも、そうしなくては  
との思いをつよくしました  
この展示館実現にはらわられて  
きた  
ひとつひとつの熱意には  
明日を願う志しが、  
こめられてきたのだ  
との思いをつよくしました

「聡一と悟郎を含めた子供  
の未来のために私も「参加  
しなくてはと、あらためて  
痛感しました。  
(一九七九・十一・四  
両角宣竜)

